

# 農業技術 プリズム

3段、地上からの高さ2段）の空散施肥による追肥は、背負式散布器の株元条施肥より追肥1回当たりの作業時間が

これからの農業においては、担い手の高齢化や減少による労働力不足の解消に向けて省力的な栽培技術の確立が期待されています。

現在、露地野菜栽培では、防除作業には農業用ドローンの活用が始まっていますが、施肥作業については農業用ドローンを活用した事例は少ない状況です。

そこで、ブロッコリー栽培における農業用ドローン空散施肥による追肥作業の省力化について検討しました。

農業用ドローン（DJI製 M G I I P II 粒剤散布装置装着II、空散施肥条件は施用幅

## ブロッコリー栽培

# 追肥作業の省力化に 農業用ドローン活用

約60%少なくなり、追肥作業の省力化が期待できます。

加えて、長崎県特別栽培農産物レベル施用量において、農業用ドローンの空散施肥

表 追肥方法によるブロッコリーの収量と施肥時間

試験区	化学肥料窒素施肥量(kg/10)			追肥施肥方法	花蕾(からい)調整量(g/球)	花蕾直径(cm)	商品収量(kg/10a)	施肥1回における10a当たりの施肥時間(分)
	合計	基肥	追肥					
空散施肥	12	6	6 (3×2回)	空散施肥(ドローン)	453	14.5	1735	8分
株元条施肥	12	6	6 (3×2回)	株元条施肥(背負式散布機)	441	14.0	1692	21分13秒

空散施肥、株元条施肥区ともに、元肥としてナタネ油かす17kg/10a施用。追肥後、土寄せ実施

は、株元条施肥と変わらない収量を得ることができました。

(長崎県農林技術開発センター畑作営農研究部門干拓営農研究室 主任研究員 清水マスヨ)